

無線従事者の昨今

de JA1RIZ

電話級アマチュア無線技士の免許を受けたころに思いをはせたとき、その頃は、外国航路の通信士「第一級無線通信士」にあこがれていた。学科試験の無線工学やそれに加えて、欧文普通語 125 字／分、欧文暗号 100 字／分、和文 85 字／分(現在は 100 字／分、80 字／分、75 字／分)という超難関の試験をクリアしなければ取れない「高嶺の花」の資格でもあったからです。なかなか手が届かないからこそあこがれも強かったのかもしれませんが。

その資格も時代の変遷で以前の「一通」は第一級総合無線通信士になり、電信術試験がない第一級海上通信士などが新設されてきた。電話級無線通信士は第四級海上無線通信士に、特殊無線技士(多重無線設備)は第一級陸上特殊無線技士などに変遷しています。現在はプロの免許は海上・航空・陸上あわせて19種、そしてアマチュアは4種あって、中でも電信級が3アマに電話級が4アマと改名されてきました。

以前、田舎の友人からコミュニティラジオ局の無線従事者になってほしいと依頼されたことがありました。その頃は、コミュニティラジオといえども「放送局」であるゆえでプロの第二級陸上無線技士 以上が必要とされていた為でした。しかし、そのようなシャクシ定規の条件では世間の要望に沿えない(?)ためか、最近では第二級陸上**特殊**無線技士以上の資格で可能となったようだ。

旧態の無線技士は保守用に揃えた真空管、回路部品などで故障修理ができることが条件であったと思うのですが、今や機器故障しても部品交換までして直すことができる無線技術者はほとんどいないのが実情である(笑、失礼！)ので、機器操作ができれば良いじゃないか、でしょうか。

240グループの中では、「頭の体操」としてプロの資格にチャレンジして資格取得したOMがいますね。第三級陸上特殊無線技士はタクシー無線の無線従事者に、第二級陸上特殊無線技士は前述のコミュニティラジオ局のほか衛星(VSAT)中継業務などの無線従事者になることができたりするようで、所持していると何かと便利！ かもです。

最近の免許証は、いわゆるパウチッコ化(ラミネート処理)されたうえ、ホログラム偽造防止対策が施されている結果、本人確認書類として外国でも信用度が上がり利用範囲が広がっているとのことです。

パスポート、戸籍謄本などを請求する際は、これら無線従事者免許証 1 枚で確認可能な身分証明にもなっています。これは、一度取得すれば書き換え不要の一生ものの免許証なので、大袈裟ですが自動車運転免許証よりも価値のある、アリガターイ ものといえるでしょう。

ハムを長くやっていると、見たり、聴いたりの「耳学問」で無線に関する知識がかなり蓄積されているものです。意外に、もうチョットだけ勉強すればプロの無線従事者への道が開けるのではないかと思います。

頭の体操、チャレンジしてみるのもFBかな、と思っています。 (完)

(参考資料：総務省HP、ウイキペディア)